

「明日の介護を考える」
～ICTが拓く地域包括ケアの扉～
実施報告（抄）

開催日：2016年11月12日（土）13:30～16:45

場 所：北海道自治労会館 3 階 中ホール

主 催：一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（民介協）

一般財団法人さっぽろ産業振興財団

参加者：44 社 61 名

プログラムと内容概略（以下、敬称略）

1 開会・主催者挨拶



一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（民介協）
北海道支部長 平井 淳一



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 事業本部長 田中 俊成

2 【講演】「2018 年改定動向 ICT をいかに活用するか」～介護業界こそ生産性向上が必要～



一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会（民介協）
理事長 佐藤 優治

1. 介護ビジネスとは

フォーマルサービス（法律・制度に基づき行われる公的サービス）とインフォーマルサービス（制度を使わないサービス）が混合している。成長産業であり、全ての産業から参入可能。起業しやすいビジネス。

2. 2018 年改定の動向

- ・ 今後、高齢者の中で後期高齢者の比率が上昇（2025 年には総人口の約 18%が後期高齢者）
→後期高齢者の増加に伴い、要介護認定者も増加。
- ・ 増加する中重度の要介護認定者への対応として、介護サービスを担う人材の確保が必須。
- ・ 増加する高齢者を在宅で看取れるか（医療機関でも自宅でも支えられない高齢者が増える）
→医療と介護の連携、介護事業者（従事者）の質の向上、介護サービスを担う人材の確保が必要。
- ・ MCI（経度認知障害）から、認知症へ進ませない為の対応が必要。
→早期診断、早期対応、見守りなど生活支援を拡充することにより、症状が進んでも地域での生活継続が可能になる。
- ・ 増加する後期高齢者人口・要介護認定者に対し、事業者側では現役世代の減少により人材が不足し、「市場は拡大するが、現場が受けきれない」という状況が発生すると考えられる。
→解決策として「地域包括ケアシステム」の構築が重要。
- ・ 「地域包括ケアシステム」について
- ・ 2025 年をめどに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組み。
- ・ 事業者の対応として、地域包括ケアの目的を理解しどの部分を担うか明確にすることが必要。
- ・ 利用者の年齢、性別、認知症の有無等で対応が異なるため、予防から中重度までの範囲の中でどこの利用者に対して、事業に取り組むのかを決める。
- ・ 利用者ニーズに応じたサービス内容の見直しが必要。
- ・ 現役世代の減少により不足した介護人材の補完については、介護ロボットや ICT を活用し、効率的な運営や生産性を向上させることで対応。

3. ICT をいかに活用するか

- ・ センサーや AI といった ICT を活用した、導入済の介護サービス事例を紹介。
- ・ 今後の介護ビジネスについては、作業の軽減・効率化・高度化、人材の補完、リスクの最小化、利益の拡大などの目標に対し「ICT で何ができるか」を ICT のプロと共に考えていくことが必要。

3 【講演】「介護業界における ICT 活用事例と効果」～現場の課題は ICT で解決へ～



札幌学院大学 客員教授／IT コーディネータ 赤羽 幸雄

- ・ 「攻めの IT 経営」中小企業百選⇒2016 年 介護事業から 2 社選出
 - ① 有限会社ミカタ：脳卒中患者向けに IT を活用（リハビリプログラムをデータベース化し、クラウド環境下で電子黒板・タブレットを活用したリハビリ）した学習教材を開発。効率の良いリハビリサービスを実現（10 年間に延べ 6 万人の利用者受入）高い評価。
 - ② 有限会社イーストファーマシー：「介護の科学化」と IT 活用（自社 HP の再構築）。会社案内を中心とした情報提供とそれらの問い合わせに対応する業務体制の整備。業務量増に伴う収益向上のための顧客管理・販売管理・在庫管理システムを導入。
- ・ 守りの ICT 活用：効率化、合理化・生産性向上
- ・ 攻めの ICT 活用：顧客満足度の向上、高付加価値化、生産性向上
→企業の IT 投資の目的は「守り」偏重になっている。
- ・ 平成 28 年度 第 2 次補正予算について
 - 1. 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援事業
 - 2. 中小企業 IT 経営力向上支援事業(新規導入)
 - (1) サービス等生産性向上 IT 導入支援事業
 - (2) 経営力向上・IT 基盤整備支援事業
 - (3) IT 関連の専門家等派遣事業（2 年間で 1 万社の派遣を予定）。
- ・ ICT 活用事例
 - 1. 職員にセンサーを取り付け、職員の動きをデータ解析し、人材の効率的な配置を実現する。
 - 2. ヒト型ロボットを使い、夜間徘徊する入居者を確認すると声掛けして引き留め、職員に通知
- ・ 将来的な介護職員の人手不足という経営課題は、ロボットや ICT を駆使して解決できる。

4 「市内 IT 企業が提供する実サービスのご紹介」



案内役：北海道 IT コーディネータ協議会 副会長 田坂 和大

① 「複数拠点の介護施設の購買窓口一本化でコスト削減&業務効率化を」



システムアーツ株式会社 開発部 システムプランニング担当 嘉津山 公一

- ・介護施設の経営課題は、コスト管理が重要。物品購入費は削ることができる。
- ・医療機関の実例から介護事業にも活用できる「コスト削減からの経営課題解決」のご提案
 - ・病院でのコスト管理の3ステップ
 1. コスト削減交渉
 - 改善活動原資の確保。ここで職場を改善するための原資を得る。
 2. 得た原資で在庫削減・業務効率化
 - ITを導入し物品の状況が見える化。データを蓄積、傾向を分析し継続的な改善を図る。
 3. 集中購買・共同購入
 - 施設単位で発注ではなく、全体を集約して発注することで、購買業務の効率化や
 - ・ボリュームディスカウントの交渉が可能になり、更なるコスト削減を実現。
 - ・購買管理システム「Mr. SPD」のご提案：システム導入のメリット
 - ・自動発注で発注作業の省力化。払出時にカードを利用することで物品の使いすぎ防止。
 - ・業務を回しているうちに、購買品の動きに関するデータが蓄積され、データ分析することで部署毎の払出実績が確認でき、効率的な物品管理が可能。
 - ・「Mr. SPD+Web 管理システム」の組み合わせで、複数施設の購買を一元管理が可能。

② 「人工知能(AI)テクノロジーがもたらす介護サービス進化の可能性」



株式会社サジェコ 代表取締役社長 伊藤 直樹

- ・ ICTと介護事業の両面に携わっている企業から、介護のIT化について
- ・ クラウド型通所介護業務支援ソフトウェア「ディアシスト」のご提案
 - ・ 初期費用は0円。月額サービス料金も低額で利用できる(最大で月額3,500円)
- ・ 介護分野での IT による課題解決
- ・ ITとAI(人工知能)について
 - ・ ディープラーニング(深層学習)の登場により、自身で考える「脅威のマシン」が実現。
 - ・ 日常生活に利用されている→自動運転、人型ロボット、コンピュータ将棋・囲碁。
 - ・ 介護分野→会話ロボット、見守りアプリ、介護者補助パワードスーツなど、補助的AIは導入済。
- ・ AIとITの違いについて
 - ITは異常を検知すると人に知らせて判断を仰ぐが、AIは異常に対して自身で判断し対応する。
 - 省力化、負担軽減を実現。
- ・ 介護分野へのAIの応用
 - ・ 最適な介護計画の策定、各種シフトの最適化、監視システムによる徘徊対策など効率化。
 - ・ 認知症・要介護度の判定。介護報酬の不正受給判断など、所轄官庁にも導入の可能性。
- ・ 2040年頃には感情を兼ね備えた人型ロボットが介護作業を担うかもしれない。

③ 「24時間定期巡回・随時対応サービス施設向けオペレーション支援システム」について



株式会社シーエスアイ 福祉システム部 川名 秀和

- ・ 急速な高齢者の増大により、介護環境は「施設」から「在宅」サービスへシフトしていく。
- ・ 居宅介護系事業所の経営においては品質の確保と効率的な経営が課題

- ・24時間定期巡回・随時対応サービスの現状
 - ・「夜間・深夜の対応が中心」「コール対応が多い」など大変なイメージがあるが、実際は訪問対応の7割以上が日中であり、コールのうち訪問を要するものは3割ほどとなっている。
 - ・支援システムについては利用者⇄オペレーター(指示をする)⇄ヘルパー(訪問する)が連絡を取り合って対応するため、ケアマネジャーとヘルパーの間でリアルタイムの情報共有が重要。
 - ・サービス支援システム「24時間フィールドマネージャー」のご提案：システム導入のメリット
 - ・利用者、担当者(ヘルパー)の作業状況が見える化し、作業時間の削減を実現。
 - ・従来型携帯、スマートフォンどちらでも対応可能(使い慣れた端末で操作できる)
 - ・ヘルパーの勤怠・スケジュール管理や訪問実績の分析も可能。
 - ・削減できた時間で研修を実施し、更に質の高い介護サービスを実現。
- 利用者および家族の満足度向上への貢献、経営効率向上への貢献。

5 情報交換・交流（ご相談）



<参考>セミナーの様様



以上